

秋田か琉球かで迷い

バスケットボール男子Bリーグ1部（B1）チャンピオンシップ（CS）に初出場を決めた秋田ノーザンハルネッツの相手は琉球。旧bリーグ時代から激闘を繰り返してきた好敵手だ。両チームには深い縁がある。（小松田直樹）

「Bリーグ開幕カードを決める際、bJ代表を琉球にするか秋田にするか悩んだ」。2013-14から2014-15シーズンにハルネッツが有明で勝つていたら、結論が変わっていたかも知れない」（原文のまま）

初代チェアマン・大河さん

優勝経験の有無で判断

2016年9月22日、東京・代々木第一体育館でのBリーグ開幕戦では旧ナショナルリーグ（NB1）A東京と、旧bJの琉球が対戦。初戦は地上波で全国放送された。音楽や映像を駆使した演出で、新リーグ誕生を強烈に印象付け、プロバスケの知名度を高めた。

大河さんによると、開幕前のカードは1年前までに決める必要があった。条件は、都内開催とNB1、bJ双方から1チームずつ選ぶことだった。既にホーム開催となるA東京の出場が決定しており、懸案はbJ代表チームをどこにするかだった。

15年5月、秋田は東京・有明コロシアムでのbJファイナルズに出場。視察した大河さんは、秋田プースターの熱量に目を覚まし、リンク姿の老若男女が、

秋田のCS進出を受け、大河さんは「バスケット王国の代表として、地元で元気を与える活躍が見たい」とエールを送り、「会場は日本で一番素晴らしい沖縄アリーナ。プースターも大いに刺激を受けてほしい」と話した。

決勝の相手は浜松・東三河（現B1三連）。秋田は先行したが終盤猛追され、残り3秒で逆転を許し、悲願の頂点を逃した。

一方、琉球は15年までに3度bJを制覇。大河さんは「琉球もbJ屈指の人気球団。最後は優勝経験の有無が決手になった」と明かす。Bリーグ開幕カードが決まったのは15年7月。秋田は悲願の優勝と共に、歴史的な一戦への出場も逃してしまっ

た。市民歌を高らかに歌い、まるでホームのような雰囲気をつくる。刺激を受けた。bJからは秋田がいいじゃないかと思っ

選手やHC、数々の縁

「秋田対琉球」といえば、14年5月のbJリーグ決勝を思い起こす人も多いだろう。琉球の堅守に苦しみ、89-103で敗れた。この試合、3点シュート7本を含む34得点と大暴れしたのが、今も琉球で活躍する岸本隆一選手だ。CSで再び秋田の前に立ち

はだかる。琉球の桶谷大ヘッドコーチ（HC）は、12～15年にbJ岩手を率い、13年から3季連続、プレーオフで秋田に敗れた。その後B1大阪などを経て、今季9年ぶりに琉球に復帰。何度も苦杯をなめさせられてきただけに、秋田対策に万全を期すのは間違いない。

琉球の選手では、小野寺祥太選手が以前秋田に所属。満原優樹選手は、能代工高（現能代科技高）が最後に全国制覇した07年秋田国体の主力メンバーだ。一方、秋田の古川孝敏選手は17年から2季、琉球に所属している。

秋田と琉球はB1レギュラーシーズンで過去10戦し秋田の3勝7敗。今季は昨年12月の天皇杯全日本選手権4次ラウンドで顔を合わせ、69-101で秋田が大敗した。CSの舞台上で雪辱を果たしたい。



bJリーグプレーオフファイナルズ決勝で琉球と戦う秋田。両チームは再び大舞台上で相まみえる＝2014年5月25日、東京・有明コロシアム



詳細は電子版

※記載内容に誤りがございました。

【誤】初代チェアマン→【正】Bリーグ初年度開幕時のチェアマン